

医師6人、ワクチン接種半年で6万8千回

エールホームクリニックが拓く

（長岡市）

新しい医師と医療のスタイル

エールホームクリニックが誕生したのは昨年10月のこと。幸か不幸か、新型コロナウイルスの感染拡大と同時にスタートしたようなもの。同クリニックでは国難と言える緊急事態に、ワクチン接種を集中的に実施。何と6人の医師が半年で打った回数は7万回（11月19日段階）。そこから新しい医師、そして医療の在り方が見えてきた。

半年で7万回、救急搬送、アナフィラキシーなし

10月8日、長岡市にあるエールホームクリニックは開院1周年を迎えた。当初、2人の医師により、内科、リウマチ科の2診療科でスタート。今年4月から皮膚科、小児科、アレルギー科が追加され、医師が4人加

わって6人体制になった。同クリニックが「コロナワクチン接種が7万回を超えました」と発表したのは11月19日のこと。〈当クリニックではこの7万回の接種すべてを医師が行い、これまで救急搬送やアナフィラキ

シーショックの発症事例はありません〉（エールホームクリニックのウェブサイトでより）
単独のクリニックがどれだけワクチン接種を実施したか、そうしたデータを取りまとめた資料は見当たらない。それゆえ正確なところは不明ながら、これほどの接種回数を誇るクリニックは、国内どこか世界にそうあるものではない。エールホームクリニックを運

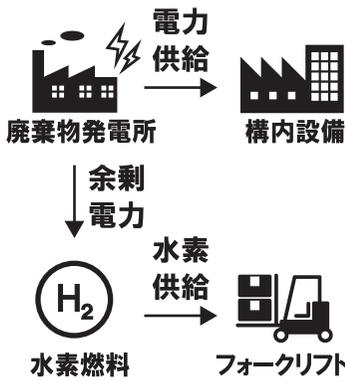
営しているのが昨年4月に設立された医療法人メデイカルビクトバレーだ。理事長はクリニックのドクターでもある内科医の澁谷裕之氏。同氏は長岡市の生まれで弘前大学医学部の出身。長岡赤十字病院の総合診療科で副部長を務めた。澁谷理事長はこう言う（6万8千回段階でのコメント）。「半年で6万8千回、すべて医師が打って、救急搬送もゼロ、

アナフィラキシーもゼロです。その内容について内科学会で発表を予定しています。これは私たちがどれだけ丁寧に接種を進めているかを象徴する数字だと考えています」
澁谷理事長だけで「半年で1万6千回」、「当クリニックには1万回超えの医師が4人います」（同）という。不謹慎な言い方かもしれないが、ほとんど「ギネスに挑戦」のようなク



廃棄物から水素!?

当社では廃棄物を燃やした熱で電気を作っています。発電した電気は構内で使用するほか、水素の製造に利用し、この水素はフォークリフトの燃料として活用しています。この取組により、大幅なCO₂の削減を行っています。



「低炭素型廃棄物処理支援事業」環境省補助事業

青木環境事業株式会社

- 産業廃棄物処理
- リサイクル
- エネルギー関連事業

〒950-3102
 新潟市北区島見町 3268-15

☎ 025-255-3360
 www.aokikankyo.com



エールホームクリニックの6人のドクターたち

1日、患者が一桁の時期も

エールホームクリニックは個人の開業医に比較して施設規模も相当大きい。駐車場も60台以上確保されている。それでも月曜は特に込み合うようで、駐車スペースが不足気味になるといふ。だが当初は大いに違った。「来院する患者の

数が一桁という時期が続いた」（澁谷裕之理事長）という。「10月に開業し、年が明けて1月、2月でも1日の患者さんが4人、5人で、医師やスタッフの数が多くという日もありました。患者はいない、お金はない、当時は信用もなかつ

たわけですから、何もないところか、マイナスから始めたようなものです」（同）だが澁谷理事長は楽観的だった。「患者さんの数が平均一桁だったわけですが、本物は理解してもらうまで時間がかかるんです」と、最初から言い続けていました。それは最初から分かっていたことです。スタッフには「何も心配する必要はない」と説明し、金融機関との折衝などについては私が当たっていました。

これだけの施設とスタッフを抱え、患者の数が1日10人という信じられない数字を見せつけられた上に、理事長の私は笑顔でしたからね。金融機関だって信じられなかったと思います。そんなの気にしてどうするんですか。本物を理解してもらうには時間がかかるんです。絶対に大丈夫」と言い続けました」（澁谷理事長）澁谷理事長には確信があったという。その裏付けとなったのが優秀なスタッフだった。「1カ月の患者さんが100人、200人といった世界でしたよ。でもスタッフはみんな極めて優秀なんです。ドクターの質も高いですが、看護師さんや医療事務の方々など、運営スタッフ一人一人の能力が極めて

リニックだ。この半年間、医師6人がワクチン接種のみに専念したわけではない。通常の医療活動を行いながらの数字だ。エールとは「応援」や「声援」といった意味。開業を東京オリビックの頃に予定していたこ

とからのネーミングだという。想定外だったのがコロナ禍だ。クリニックの開院と新型コロナウイルスの拡大が重なった。打ちも打つたり「半年で7万回」は、コロナでへたりそうな世の中に「エール」を送る結果となっている。

「患者さんの数が平均一桁だったわけですが、本物は理解してもらうまで時間がかかるんです」と、最初から言い続けていました。それは最初から分かっていたことです。スタッフには「何も心配する必要はない」と説明し、金融機関との折衝などについては私が当たっていました。

つけられた上に、理事長の私は笑顔でしたからね。金融機関だって信じられなかったと思います。そんなの気にしてどうするんですか。本物を理解してもらうには時間がかかるんです。絶対に大丈夫」と言い続けました」（澁谷理事長）澁谷理事長には確信があったという。その裏付けとなったのが優秀なスタッフだった。「1カ月の患者さんが100人、200人といった世界でしたよ。でもスタッフはみんな極めて優秀なんです。ドクターの質も高いですが、看護師さんや医療事務の方々など、運営スタッフ一人一人の能力が極めて

高く、いい人が多いんです。それがまとまることによってさらに良くなる。これがシナジー効果（相乗効果）です」（同）

「半年で7万回」という接種回数も、医師を含むスタッフがまとまったことによって実現できた数字だ。本物のシナジー効果が地域で知られ、評価されるようになった。そして今は1日200人以上の患者が訪れるようになってきているという。「大変ありがたいことで、患者さんが多く来てくださることが、我々にとってエネルギーになっていて、さらに頑張ろうという気持ちにさせていただいています」（同）

医療と企業のマリアージュ

エールホームクリニックでは職域接種を積極的に展開している。北は村上市、阿賀野市から南は上越市まで、さらに県境を越え群馬県の前橋市でも実施したという。接種回数は全体で6万8千回のうち職域は4万回と、クリニックでの個別接種よりはるかに多い。職域接種でもすべて医師がワクチンを打つ。

メディカルピットパレーの澁谷理事長はこう言う。「職域接種の評判はともいいです。本当に企業の方々から喜んでいただいています。これまで企業にとって医療は分かりづらかったと思うんです。今回、職域接種で私たちが入ることにより、医療とはこんなに身近にあるものなのだということを知ることができました。私たちが企業とはこれほど社員のことを考えているんだとか、工場を止めることが、どれほどとんでもないことかとか、すごく理解できるようになりました。今後は、医療をとおして企業の価値を上げるようなお手伝いをしていきたいと思っています」（澁谷理事長）

新しい出会い、医療の側、企業の側それぞれに新しい気づきがあった。「これは職域接種が教えてくれたことです。企業は思ったよりも医療のことは分からないけれど、医療を必要としていて、医療者が企業に行つて一緒に話すことで、いろんな門戸を開きたい

＝館内衛生管理・安全対策を強化中＝



花水は美肌効果と豊かな浴感が楽しめる里山の中に佇む日帰り温泉です。館内には花と緑が彩るオシャレなヒーリングスパ、癒しの空間が充実し、本格的リラクゼーションサロンを併設。レストラン・カフェをリニューアルし、新たに生まれ変わりました。自分にあげたいご褒美は、癒しです。

■ご利用料金

※表示金額は全て税込価格です

	タオルセット	タオルなし
大人(中学生以上)	950円	800円
小人(小学生)	550円	400円
未就学児	無料	
【平日】朝割り 10:00~11:00	【タオルなし】600円	
【平日】夜割り 18:00~20:30	【タオルなし】600円	

●メンバーズカードのポイント対象です

・レンタルタオル(バスタオル+フェイスタオル)……………150円

■年末年始も休まず営業しております

皆さまのご来館
心よりお待ちしております。



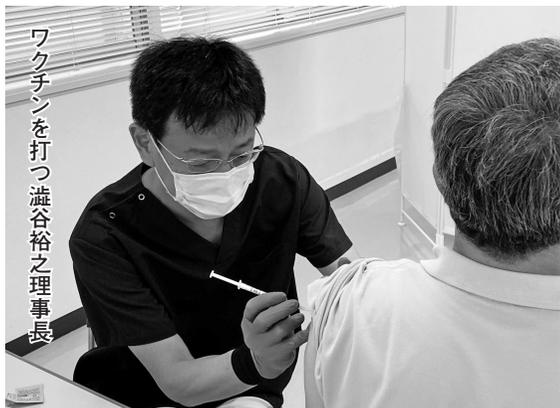
Akaha spa
Niitsu Healing Spa

日帰り温泉
秋葉温泉 花水
新潟県新潟市秋葉区草水町1-4-5

☎0250-24-1212

営業時間/10:00~21:00(最終受付時間20:30) 年中無休
レストラン営業時間/全日 11:00~20:30(L.O.20:00)





ワクチンを打つ澁谷裕之理事長

と思っています。企業の側でも健康経営というものを医療者と一緒にやりたいのだなということとをすごく感じました」(同)

コロナ禍で医療従事者の奮闘ぶりが伝えられた。さらにワクチン接種を通じ、医療が我々の日常にとってどれほど大切であるか再認識させられた。

すべて自前

「これまで医療というものは何となく日常と違うところにあるといったイメージがありました。そうではなくて、どこも医療を求めているし、医療はものすごく近いところにあります。私は最近よく『医療は社会の潤滑油』という言葉を使うのですが、医療は誰もが好きで必要な分野ですし、そうやっていかなければいけないんだと思

いますし、日常と医療とを分けたいいけない。医療とはそういうものなんだと、すごく実感しています。医療がよくなれば地域がよくなる。まさにそういうことなんだと思うんです」(同)

「すべて自前」というスタイルは職域接種も同じだった。「職域接種も」全部自分たちで作り上げてやってきたんです。例えば、旅行会社が予約のノウハウを生かして、ワクチン接種の事務を受託しているところからすべて自分たちでやっています。いわばマネジメント会社と医療が合体したようなもので、これが当クリニックの特徴でもあります。

「これまで全部手作りで、医療コンサルは一切入っていません。アウトソーシング(外部委託)も一切なしです。すべて自分たちのアイデアでやっています。多分、日本中でここだけではないですが、土地探しから始めて、この(クリニックの)場所も自分で決めたんです」(澁谷裕之理事長)

「結局は人です。いい医者、いい看護師、いい検査技師、いい医療事務を集め、いい運営スタッフを集めれば、失敗しようがないんです。必ず分かってもらえる日が来るし、評価していただけると思っています。」

「医療は博打的な要素がまったくない世界です。誰もが必要とするもので、誰もがいい医療を求めるわけです。私は、『医療は社会のインフラだ』と思っています。そういった意味で、医療は人間が作るもので、とにかく丁寧に最高の医療を作っていくと考えると、先ほど申し上げた患者さんが一桁だった期間、それが準備期間だったんです。そうした時期にとことんまで考えて、



仕事に誠実

一人とともに、地域とともに、歩みつづける

総合建設業
株式会社 高舘組

本社 / 上越市西本町2丁目1番5号 ☎(025) 543-3425 FAX (025) 544-4564

じ、飛躍的に医療の質も高まる。そんな好循環が生まれていくようにだ。

「自分たちでやっているから、やっていることが分かる。そして一つ一つ作り上げていくので、どんなノウハウが付くんです。完全マネジメントク

原点はアパと原信

メデイカルビットバレーの澁谷裕之理事長は長岡生まれの長岡育ち。余談だが、小学2年生の時に見たテレビ番組が未だに忘れられないという。それが何と、ワイドショーの人気コーナーとして一世を風靡した『宮尾すすむのああ日本の社長』で、ホテルとマンションを国内外に展開するアパグループの社長夫妻が登場した回だったという。

「アパがまだ金沢でやっていて、元谷外志雄社長夫妻が地元信用金庫を辞めて間もなくだった頃の番組だったと思いま

リニックです。これが患者さんが1日一桁から200人、300人になっている理由です。だからなるべくしてそうなっているんです。全部自分たちで作っているから、自分たちの立ち位置が100%分かっているんです」 (同)

ンションの用地選定、設計などもすべて自前で言うという。同グループの元谷外志雄代表は、本誌のインタビューで「いわば卸値でホテルをつくっているようなもの」と語っていたことがある。例えばヒルトンなど、世界チェーンのブランド名を冠することもないから、ロイヤリティも不要。これらがアパグループが高収益であることの理由でもある。「すべて自前」というエールホームクリニックのスタイルとも似ている。

もう一つ、澁谷理事長にとってあこがれの企業がある。それが県内最大手のスーパー原信だ。「これも小学校の2年の頃だったと思います。原信が(信濃川の)蔵王橋の近くにできたんです。あの時、風船をもらいに行つて、今にして思えば、当時の店舗は今みたいに大きくなかったと思うんですが、世の中にこんな便利なものがあるのか」と思わせてくれたのが原信だったんです。



各種の新型コロナワクチン

澁谷理事長にとって、「アパと原信は2大企業だ」という。「どちらも子どもの頃に、なにかと思わせてくれたところで、これと川を越え、川の向こうに行くことが夢だった私に、何となく橋まで連れてきてくれたのが原信でした。そして長岡高校に通うことになって初めて川を越えたんです。当時、

家の近くにある個人商店で買い物するしかなかったものが、原信ができて、なに、このでかいところ、って思いました。そして同時期に、『宮尾すすむのああ日本の社長』を見ていたんですね」 (同)

楽しかった、それがすべて

通常の診療を行いながら、半年間、6人の医師で7万回のワクチン接種。やはり医師

の力には凄みがある。「火がつけばやります。医者だけではなく、医療従事者は、

財界にいたホームレジアドレス
<https://zaikaijigata.com>

世界にいかた



かつては「1日の患者が一桁だった」というエールホームクリニック

もともと全員が世の中のため、社会のためになりたいとか、困っている人のためになりたいという人たちがほとんどなんです。私たちのところに来て、（ワクチン接種を）やろうということになる、そうした心がよみがえるんです。

そうした気持ちをやみがえらせてくれたのがワクチン接種の良さだったのかもしれない。医者にとって何が医療なのかという、すべて最先端

自分たちのアイデアと努力でやったことが評価され喜ばれるって、これ以上の仕事はないですよ」（同）

エールホームクリニックでは4月から医師が4人増え10人体制になる。医師不足が深刻化する本県だが、このクリニックには医師が集まってくる。「私たちのクリニックのような仕組み

を作ること、1人の医師が2人分働く医者が変わってしまふんです。これが当クリニックの最大の特徴です。人数は変わらないかもしれないけど、医者としての役割、活躍はものすごく幅広くなるし、みんな本来持っていた医療従事者の気持ちがよみがえるんです。そして医療の質は上がるし、皆さんから喜んでいただける。けつきよく医者は数ではないんです。医者は質なんです、やっぱり」（同）

「医師が1人で2人分働くようになる環境」について、澁谷理事長は次のように語っている。

「医者って、もともと性格がいい人が多いんです。いい環境を整えてあげれば、本当に人から喜んでもらえることをしてくれるんです。もともと勉強が好きだし、働くことが好きな人たちです。

何となく、医者」ということで、ほかの職業との間に距離感がつくられてしまったというだけなんです。その距離感を縮めたのが私の仕事で、そこが縮まるとすごく楽しいんだと思います。もともと人気の職業ですし、スタッフだって先生と呼んでくださるし、それは楽しくてやる気になりますよ。それで、俺が頑張らなきゃ、って思ってくれるわけです。

本当に「医者は地域の潤滑剤」だと思います。医者は医療だけではなく、いろんなことを知っています。ですから医者はほかのことも世の中の役に立っていくことができます。産業の力になれるんだと思います」（同）

現在、長岡市中心部の再開発プロジェクトである「米百俵ブレイス」で「エール長岡クリニック」の開設準備が進んでいる。近い将来、新潟市での開業も見込んでいるという。「エールスタイル」とでも言うべき医療の在り方が評価され県内に広がれば、「新潟が若い医療従事者が働いてみたくなる県」になることも夢ではない。

【注】

新潟

を、セコムする。

群馬

を、セコムする。

セコム上信越は、もっともすすんだ安全・安心を新潟・群馬・長野3県のみなさまにお届けします。

長野

を、セコムする。

☎ 0120-126-756 (24時間年中無休)

セコム上信越株式会社